



これはまだ保育園に来たばかりで、なんとなくまだ「自分」を隠していたころのかなでくん。(笑)
でも、ちょっとずつ、こうしているんな先生やお友だちと関わりながら、保育園が安心して過ごせる場所になってきたような気がします。

今ではそんなころが懐かしいですが、こうして少しずつ安心の輪を広げられたからこそ、今の伸び伸びとした姿があるんですね。



園長：自我は他者との間でモノを介してやりとりする中で目覚めていきます。そうやって自分らしさもはぐくまれていくんですね。



靴下を脱いだり、靴を履いたり、帽子をかぶってみたり…自分でできることをやってみようとする姿が出てきました。



園長：自分でできた！！って嬉しい。身の回りのことがだんだんできるようになって、どんどん自信も芽吹いていくみたいです。



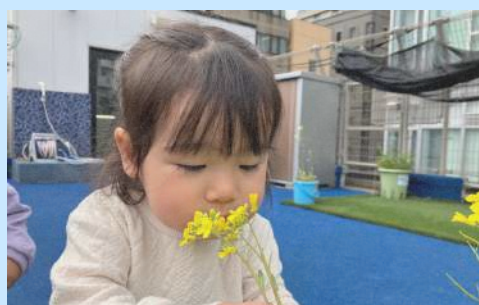
園長：遊びは真剣なもの。やりたい目標に向かって、一心に考えたり試したりするなかで、学びに向かう力が伸びていきますね。



真剣なまなざしでフルーツを切るしょうたくん。なかなかうまく切れず苦戦しつつも、包丁の角度を替えながら試行錯誤。やっとの思いで切れたときの達成感が伝わってきます。



大人が「いい香りするよ」と嗅いでいたら、真似して自分も嗅いでみるわかちゃんでした。



自分で実際に見て、触れて、かいてみて…という五感や自分の感覚も、大切な体験だなあと思います。



園長：どれどれ、どんな香りだろう？好奇心からモノへの関わり方も広がりますね。



1期まとめ

それぞれの子どもたちが「いま」やりたがっていること…それは、「いま」伸びようとしている力でもあるのだと思います。それを、できる限り、思う存分楽しめる環境を考えながら過ごしてきました。いつでも、「いま」の子どもの姿がそのヒントになっています。
ハイハイして身体を動かすことも、手先を使ってみることも、砂や水やどろんこの感覚も、お花の匂いも…子どもたちにとっては一つ一つが大切な育ちの栄養なのだと思います。